

|   |  |                  |      |
|---|--|------------------|------|
| 科目名   |  | 産業疫学・医学概論特別論文指導  |      |
| 科目責任者   | 藤野 昭宏  | (医学概論 教授)        |      |
| 担当者   | 樺田 尚樹  | (産業・地域看護学 教授)    |      |
| 担当者   | 原 邦夫   | (安全衛生マネジメント学 教授) |      |
| 担当者   | 中谷 淳子  | (産業・地域看護学 教授)    |      |
| 開講時期:   | 1～3年次  | 単位数:             | 8 単位 |
| <p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>産業疫学・産業保健ならびに医学概論領域において自らが主体となって研究を推進し、査読システムが確立した産業保健・衛生系ならびに生命倫理・医療人類学の専門誌に掲載するプロセスを学び、産業疫学領域及び医学概論領域に貢献できる科学者としての能力を身につける。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生命倫理学のテーマを自らが主体となって見いだすことができる。</li> <li>2) 医療人類学に関するテーマを自らが主体となって見いだすことができる。</li> <li>3) 産業疫学・産業保健に関するテーマを自らが主体となって見いだすことができる。</li> <li>4) 生物統計学的手法を自らが主体となって見いだすことができる。</li> <li>5) 生命倫理学に関する方法論を自らが主体となって見いだすことができる。</li> <li>6) 医療人類学における方法論を自らが主体となって見いだすことができる。</li> <li>7) 産業疫学・産業保健に関する方法論を自らが主体となって見いだすことができる。</li> <li>8) 生物統計学に関する方法論を自らが主体となって見いだすことができる。</li> <li>9) 生命倫理学におけるアプローチの応用を主体的に論述できる。</li> <li>10) 医療人類学におけるアプローチの応用を主体的に論述できる。</li> <li>11) 産業疫学・産業保健におけるアプローチの応用を主体的に論述できる。</li> </ol> |  |                  |      |
| ● 評価方法  | 論文作成に関する討議への参加度60%、プレゼンテーション内容30%、課題レポート10%等で総合評価する。 |                  |      |
| ● 参考文献  | 自らが積極的に参考文献を検索・知識の集約を行うが、指導の中で必要に応じ紹介する。             |                  |      |

● 授業計画(適宜個別対応)

| 内容  | 担当教員                |
|---|---------------------|
| 専門的な研究を行うための文献調査の方法、データの収集方法、統計解析、研究倫理など自ら研究活動を行う上で必要不可欠な事項を指導する。 | 藤野<br>櫻田<br>原<br>中谷 |
| 自ら行った研究をまとめるにあたって、論文の書き方の基本から応用まですべての範囲を指導する。                     | 藤野<br>櫻田<br>原<br>中谷 |
| 書き始めから論文の受理までのプロセスをデータを用いて指導する。                                   | 藤野<br>櫻田<br>原<br>中谷 |

● 授業内容

|  |
|--|
| <p>(概要)</p> <p>自らの疑問に基づき研究計画を立案し、データを収集し、論文の作成を行い、投稿、受理までの個別指導を行う。他の院生や教員からもコメントやアドバイスをもらいながら、講座内や学会で研究内容を発表する。これらを通して自ら科学的に問題を発見し、解決する能力を養成する。</p> <p>(藤野 昭 宏)</p> <p>働く人の健康の文化的価値観を生命倫理学、医療人類学及び質的研究の観点から検討できるよう指導する。具体的には、産業メンタルヘルスにおける職場復帰のためのリワークシステムの構築など、働く人の心身の健康を支援するための産業保健システムについて、生命倫理的・医療人類学的アプローチを踏まえた半構造化面接等によるインタビュー調査を行い、精度の高い質的研究ができる能力を養う。また、指導教員とのカンファレンスを通して、高度な学術的プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を充実させ、最終的には倫理観を有した研究者として自立できるよう指導する。</p> <p>(櫻田 尚 樹)</p> <p>働く人々の健康保持、増進のためには個人の健康管理とともに、各種有害因子の曝露、労働環境等と健康の関係を集団として捉え、予防対策などにつなげていく視点が重要である。そのために疫学の基本的な考え、および研究デザインを理解し、疫学的手法を適切に使える能力を養い、疫学研究の成果を批判的にみる見識を習得し、この分野の研究者として自立できるように指導する。この領域は、多職種との連携のもと、現場に活用可能なエビデンスを構築していくことが重要と思われるため、学内外の研究者とも連携して学際的な視点を養う基盤を構築するように指導する。</p> <p>(原 邦 夫)</p> <p>産業保健分野の文献等の学術的な解析能力と仮説設定ができる研究能力を獲得して、働く人々の健康の保持増進をエビデンスを持って進めることができる人材を目指した指導を行う。具体的には、これまでに指導教員が発表してきた産業環境疫学に関連した論文を取り上げ、クリティカルレビューすることで、学術的な解析方法について理解を深めてもらう指導を行う。同時に、職場の課題を取り上げ、仮説を立て研究を計画・実施・解析することで、研究能力を身につけられる指導を行う。これらを指導教員とのゼミ形式で行う中で、学会での発表および学術誌への投稿を支援すると同時に、得られたエビデンスによる現場実践を目指した指導を行う。最終的には、自立した研究者となるように指導する。</p> <p>(中谷 淳子)</p> <p>働く人々の心身の健康の保持増進を図るための高度な産業保健活動実践能力の習得・開発ならびに産業衛生学の発展に寄与する人材の育成を目指す。指導にあたっては、看護学の視点として、対象となる個人の生活背景や価値観を尊重しQOLの向上を重視した支援を行うことや多方面とのコーディネート機能、また保健学の視点として、コミュニティ(地域、集団、組織)を分析し自主活動を促す機能等の視点を取り入れる。また、学生間・学生教員間のディスカッションを通して、産業衛生学に必要な学際的視点、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、論理的思考力を養成し、最終的には独立した研究者として自立できるよう指導する。</p> |
|--|